

動物管理方針及び飼育管理の考え方（原案）

1) 計画条件の整理

(1) 飼育管理の考え方

遊亀公園・附属動物園（以後、遊亀動物園）の将来像を踏まえ、繁殖をめざす動物種、現状維持とする動物種、将来撤退する動物種、新規導入動物種および個体数について、動物園関係者や学識経験者へのヒアリングを踏まえ飼育管理の方向性を整理した。また、将来的に現状維持や入手が困難な動物種については種の変更も考慮することとした。

■ 飼育管理の方向性

哺乳類	個体情報H29現在				動物飼育管理方針		既存施設の課題	動物舎整備計画	展示イメージ		
	全頭数	性別	現在の年齢	平均寿命	繁殖について	動物管理方針			飼育管理	整備後	10年後
タイヌウ (アジアゾウ)	1	♀	39	60~70	高齢個体であり♀の搬入困難のため現在見込みなし	次世代撤退 ・高齢、体力的に他園移動困難 ・群れの生活に対応が難しい現状の単独飼育	直接飼育から間接飼育へ移行中	現個体のみを飼育する場合は寝室の規模は確保できていると考えるが、飼育設備、環境等改善が求められる。 放飼場面積は基準値を下回り拡張が望ましいが、高齢であり、工事の騒音、振動等が懸念。軽微な改修で様子を見るなど考察を要する。	・1頭あたり500㎡以上の放飼場で、水浴びできるプールやコングリート床でなく土床(深さ2m程度)とする。夜も採餌行動するため広い小屋が必要。エンリッチメント(採餌行動の刺激、刺激による単調な生活習慣を改善)を実施	・現位置で放飼場をできる限り拡張 ・間接飼育に必要な設備を追加 ・寝小屋(自然風)、土床、プールは既存改修 ・多様な環境(木陰、水辺、土等) ・エンリッチメントを拡充 ・エサが、雨、匂い、砂浴び、背中こすり	広い開放的な空間であることから、ふれあいゾーンとして転用 ・乗馬、放し飼いし来園者と動物に優しい施設とする。
コモンリスザル	2	♂ ♀	12 13	10~15	雌雄いるが、年齢的に繁殖困難、他園からの入手可能	繁殖促進	高齢化対応 バックヤード飼育	寝室規模は確保できていると考えるが、繁殖等の予備室がない。	・小型のサル類なので複合展示舎で、同一生息域の動物との混合展示を可能とする	活劇に行動するのて登り木や渡り板を設置	他の小型サル類に更新
ジェフロイカモザル	2	♂ ♀	28 不明	22~30	雌雄いるが、年齢的に繁殖困難、他園からの入手可能	繁殖促進	同上		長い手足としばしば使った特徴ある行動を観察できる展示空間	・天井が高い立体的な展示空間 ・特徴ある行動展示ができる遊具を設置 ・カビバラ等との混合展示も検討の	他の小型サル類に更新
シロテナガザル	2	♂ ♀	33 不明	25~40	雌雄いるが、年齢的に繁殖困難、他園からの入手可能	繁殖促進	同上		動物園内でもっとも動きのある動物として人気がある ・広い運動スペースの確保 ・プラキエーション(枝むわり)ができる横に長い展示空間	・天井が高く横に長い立体的な展示空間 ・特徴ある行動展示ができる遊具を設置 ・他園からの新規導入(提供)を検討	同上
エリマキキツネザル (ssp)	3	♂1 ♀2	29 19.13	20~35	血縁同士のため別居中。交雑種のため、繁殖予定なし	次世代撤退	繁殖施設の整備	放飼場の規模は設定施設面積を大きく下回っているため改善が求められる。樹上性の高い種類であるが高さが不足している。	オスと親子の区分展示 中型のサル、複合展示舎にて飼育展示	・複合展示舎にて飼育展示 ・空調コントロールされた屋内施設の中で、動物種が生息するマダガスカル熱帯雨林の環境を再現する。	
ワオキツネザル	3	♂2 ♀1	28.11 2	20~35	現在3頭出産し仔1頭は返却、現在2頭の仔を飼育中	繁殖促進	同上		同上		
チンパンジー	3	♂ ♀	36 40.34	45	雌雄いるが、年齢的に繁殖困難	次世代撤退	高齢化対応 バックヤード飼育	現個体3頭のみ飼育を続ける場合増殖規模は確保できている。 放飼場は近年の施設に比べて大きく下回り、樹上性の高い動物が高さが無い。知能も高く環境改善が必要	放飼場を拡張(高く広く) ・社会性、高い知能、優れた運動能力を発揮できる遊具やエンリッチメントを整備 ・高齢化対策としてバックヤード飼育、予備放飼場等の整備を検討する	・現位置にて新規放飼場を増設 ・中型サルの施設転用を基本とする。場合によっては撤去し、他園からの新規導入(提供)を検討	他園からの新規導入(提供)を検討
レッサーパンダ	2	♂ ♀	10 9	15	新ペアを形成H29の借受	繁殖促進	繁殖施設の整備	現有個体のみであれば問題ないが繁殖対応不可 動水協種の保存対象種 面積は設定のおよそ1/3程度で不足	オスと親子の区分 自然な屋外環境と、夏の暑さ対策として屋内施設が必要	屋外放飼場には木登りできる高木や縄ハンゴを設置 屋内施設には木登り遊具や渡り板等を設置 スペースによるが、子どもが同じようにあそべる体験型遊具の併設を検討	
ワトボウシパンジェ	3	♂2 ♀1	6.5 5	10~15	年度内に若い♀同士を交換し、繁殖ペア形成予定	繁殖促進	血縁関係であるため繁殖予定なし		・小型のサル類なので、複合展示舎で飼育展示 ・繁殖対応のために、オスと親子の区分が必要となる飼育、展示エリア	複合展示舎にて飼育展示 空調コントロールされた屋内施設の中で、動物種が生息する南米熱帯雨林の環境を再現する。	他の小型サル類 ・はちゆうい(ペ、カケ等)に更新
クロミマーモセット	3	♂ ♀	2 2	10~15	新ペアを形成するも繁殖なし	次世代撤退	3/18に♀同士の交換を行い、新ペアを形成	施設規模不足。観覧園路に互角があり観察しにくく、乳母車利用者に危険である。ワトボウシパンジェは動水協種の保存対象種			
コモンマーモセット	6	♂ ♀	不明1、4.4.3.3 4	10~15	繁殖取り組み中	繁殖促進	3/18に♀同士の交換を行い、新ペアを形成			・小型のため、真近にみられる工夫(エサ場、ホトスポット等)を設置 ・ガラスやネットの形状、太さ、色についても工夫する。	
カナダヤマアラシ	1	♂	5	10~15	名古屋市に貸与中返却予定なし	次世代撤退	動物舎無し 欄のみ				
ネネットアカカビ ワラビー	3	♂2 ♀2	11.2 5.4	10~15	1頭産仔確認済み。今年♂仔2頭搬出予定。	繁殖促進	繁殖施設の整備 オス・親子の区分	施設規模不足、繁殖対応不可 放飼場面積は設定値を下回る	比較のおとなしい動物なのでふれあえるような近接で観察が可能	ワラビー、キバタン、ワライカワセは、オーストラリアの生息地域が重なっていることから、生息域の自然環境を再現した複合展示を行う。	
アメリカテグミ ヤマアラシ	3	♂ ♀	9 7.3	12~15	2ペア取り組み中、当園が国内の血統登録管理を行っている。	繁殖促進	繁殖施設の整備 オス・親子の区分	既存施設はブロック積み小屋であり放飼場が狭く、日が当たらない位置にある	生息域の自然環境の再現 できる限り広い、草地の放飼場を整備する	地上性のヤマアラシであることから草地、土の掘り掘りが得意。夜行性ではあるが昼でもよく活動する。 穴を掘り家としているのでその様子が観察できるよう工夫する。	
アメリカビーバー	3	♂ ♀	8 8.1	10~15	繁殖ペアを解消予定	繁殖促進 (次世代で取り組む)	繁殖施設の整備 オス・親子の区分	施設規模不足で水面積が狭い。設定値(1/2)を下回り展示に工夫が無い。マゼランペンギンは動水協種の保存対象種	不思議な生態(木を削ってダムづくり、安全な水上の巣穴)を再現	流れを堰き止めたダムのなかに造られた巣穴に入りやすい様子が観察できる水中展示とする。その解説を設置する。	
マレーグマ	2	♂ ♀	16 17	15~30	繁殖に切り組んでいるが、成功せず	繁殖促進	繁殖施設の整備 オス・親子の区分	施設規模不足、繁殖対応不可(放飼場2、産室等準備なし)マレーグマ、ユキヒコウ、ベンガルトラは動水協種の保存対象種	木登りが得意なクマなのでその特徴ある行動展示を展開する	・天井が高い立体的な展示空間 ・木登りのための土、登り木や高所にフィーダーを設置する	
ユキヒコウ	1	♀	-	-	亜種間雑種のため繁殖制限	現状維持	広い放飼場の整備 安全管理体制、設備の確立			生息域の自然環境の再現 ・ホット・クールスポット位置を工夫し、周辺に観察できる遊具ある展示とする	他園からの新規導入(提供)が実現すれば継続
ライオン	2	♂ ♀	16 5	15	かみね動物園より♀搬入、♂はパイオット。繁殖が盛んで入手しやすい。	繁殖制限 (園内繁殖制限)	広い放飼場の整備 安全管理体制、設備の確立	放飼場面積は設定値を下回る(およそ1/10)。動物の福祉の動物種毎の生態に対応できない	動物にやさしい多様な自然環境の創出(草地、岩場、木陰、陽だまり等) 動物園の人気動物としての迫力ある展示	・新規導入を目指し可能な飼育・展示施設の整備を行う。 ・公開トレーニングコーナー	
ベンガルトラ	1	♂	8	15	亜種間雑種のため繁殖制限	繁殖促進 純血種(アムールカスマトラ)に移行)	広い放飼場の整備 安全管理体制、設備の確立				
アメリカバク	2	♂ ♀	5 16	最長30	年内に出産予定	繁殖促進	繁殖施設の整備 オス・親子の区分	施設規模不足、2頭飼育で繁殖しているが不適。プラジールバクは動水協種の保存対象種 放飼場の規模は基準内、繁殖や水浴の確保など動物の福祉の面で観点は狭い。	泳ぎの得意な動物のため、放飼場に水辺空間を整備	動物種が生息する南米熱帯雨林の水辺環境を再現 飼育舎、放飼場におけるオスと親子を区分する鳥類との混合展示も検討	
フクロモンガ (現在非公開)	3	♂	4		今年度埼玉県でも動物自然公園と♀♀1頭ずつ交換	現状維持	夜行性動物展示手法の検討		夜行性動物の展示手法導入	複合展示舎内に夜行性動物展示ゾーンを設置、日本の飛行動物であるムササビやモンガとの比較展示の検討	夜行性動物展示として継続もしくは新たな展示ゾーンとして種の入れ替えを実施
ヨーロッパリスミ						現状維持	同上		夜行性動物の展示手法導入		
小獣舎								ふれあい広場の動物を収容しており、ふれあい広場に隣接して配置する必要			
テングリスミ カウサギ											
シバヤギ								ふれあいのための広場を設置し、人と動物にやさしい環境とする 乗馬体験ができる周回パドックを整備する		ふれあいのための立体的な展示空間 ・乗馬、放し飼いし来園者と動物に優しい施設とする。	
シャートランドポニー	2	♀2	23.12								
ミニチュアホース	1	♂	14								
ミニプタ											
ロバ											
山梨県の動物展示 導入動物 未定								身近な動物の飼育展示 小動物の飼育管理施設の整備	生息域の自然環境を再現。小動物は観察が難しいため展示を工夫	田んぼや里山の環境の再現。小動物、はちゆうい、両生類、昆虫、淡水魚等の飼育展示・解説コーナー	

鳥類	個体情報				動物飼育管理方針		既存施設の課題	動物舎整備計画	展示イメージ		
	全頭数	性別	現在の年齢	平均寿命	繁殖について	動物管理方針			飼育管理	整備後	10年後
ルリコンゴウインコ					ペア形成	現状維持	他の動物との混合もしくは複合展示	雨米の動物との混合もしくは複合展示	ブラジルバクとの混合もしくは複合展示		継続なし
チリフラミンゴ	13		49～13	40～50	取り組み中	繁殖促進	施設規模不足、繁殖出来る施設として不適合。観覧スペースが狭小	生息地の再現 水辺環境の整備	生息地の水辺環境と、繁殖のための陸地の整備		
アンデスコンドル	2	♂ ♀	30 36	50～70	取り組み中(卵の人工孵化に取り組み中)	次世代撤退	肉食なので単独飼育 放飼場面積は設定値を下回る(およそ1/10)。	高さのある飼育展示スペース	コンドルが生息する高山の岩場の再現 高所からの観覧、飼育管理できるように整備		継続なし
マゼランペンギン	6	♂4 ♀2	20.11.11 19.14	20	429年に、11年ぶりにヒナ繁殖、他園と血液更新の予定あり 今年が死亡してドローンフルエンザ時期には隔離しなければならぬ	繁殖促進	飼育環境改善 陸地での繁殖	・施設規模が不足し、設定値を下回る(1/3) ・展示に工夫が無い状況	水中展示だけでなく、陸地で繁殖できるコロニーを再現 動物に優しい水浄化設備の導入	生息地の水辺環境と、繁殖のための陸地の整備 ファンボルトペンギン(入手しやすく飼育が容易)への変更も検討	
コバクハチョウ						撤退検討	公園エリアの池で飼育展示	遊亀公園の池で飼育する事は、鳥インフルエンザを助長に繋がる恐れがある	池の動物を、動物園として飼育する考え方を直直し、撤退する	——	
ワライカワセミ	1	♀	6	20	昨年ヒナ誕生。開脚症で人工育すも死亡。今年度♀が産卵し、ペアリングできず	繁殖促進	他の動物との混合もしくは複合展示	施設規模不足、繁殖対応不可	オーストラリアの動物との混合もしくは複合展示	ワラビー、キバタンとの複合展示	
キバタン						現状維持		オーストラリアの動物との混合もしくは複合展示	ワラビー、ワライカワセミとの複合展示		継続検討

爬虫類	個体情報				動物管理方針		既存施設の課題	動物舎整備計画	展示イメージ		
	全頭数	性別	現在の年齢	平均寿命	繁殖について	動物管理方針			飼育管理	整備後	10年後
ミツユビハコガメ					繁殖予定なし	現状維持					
ケヅメリクガメ					同上	同上					
アカアシガメ					同上	同上					
アルダブラゾウガメ					同上	同上					
ホルスフィールドリクガメ					同上	同上					
バンケーキリクガメ					同上	同上					
インドホシガメ					同上	同上					
ユーンズネーク					同上	同上					
アオダイショウ					同上	同上					

(2) 飼育管理方針及び水準の設定

飼育動物種及び個体数に応じた展示手法を設定し、飼育動物の魅力を引き出す飼育管理のあり方について、事例や関係機関からのヒアリングにより動物種ごとに検討・設定する。繁殖の取り組みや環境エンリッチメント、動物の福祉に配慮するとともに飼育管理作業の効率性、安全性の確保が前提となる。

なお、将来的に現状維持や入手が困難な動物種については、種の変更を踏まえ汎用性のある展示手法とともに、併せて動物の魅力を引き出す飼育管理のあり方等も検討する。

検討にあたっては、次の観点から飼育管理方針及び水準を設定する。

○動物福祉、環境エンリッチメントに留意

- ・飼育動物が必要とされる将来的な面積・規模を踏まえ、動物種を減らし、飼育・繁殖環境を改善する。
- ・現況では、すぐに動物種を減らすことができないため、現状でできる範囲で動物福祉の観点からの改善策を施し、将来的な動物種の撤退や死亡後において、他の動物種の動物舎として再利用できるよう、飼育管理整備計画案の検討を行う。

○来園者の利便性に配慮

- ・バリアフリーや見やすい展示環境へと改善する。面積が狭いため、様々な角度から興味深く動物を観察できる多層的な展示環境を整備する。
- ・雨の日や真夏の暑い日においても快適に利用できる施設を整備する。

○繁殖可能な飼育環境の整備

- ・動物病院、検疫施設、繁殖支援施設等や工場、資材置き場などの管理専用スペースを確保する。また、研究機関の活動拠点としての機能を備えた施設とする。

(3) 動物展示施設の規模・仕様の設定

動物舎及び展示場（放飼場）の多くは、昭和45年～平成元年頃に建設され、その当時のまま現在に至っていることから、いわゆる「オリ」と「コンクリート」に囲まれた飼育環境となっており、動物福祉の観点から、その改善が必要となっている。

現有動物における必要となる動物舎及び展示場（放飼場）の規模の基準として、有識者の意見をもとに「飼育ハンドブック・動物舎-1979(社団法人動物園水族館協会)」による基準や、他事例を参考に設定を行った。

また、現在、国外の動物福祉に関する団体より、動物園の動物飼育環境の改善について注視されており、本園においてもタイゾウ「テル」に関して、改善すべき現状の問題点について指摘されている状況にある。

① 動物舎の規模設定

現在の動物園エリア内において飼育展示環境を改善するには、動物種を減らすことや、動物舎や展示場(放飼場)等の面積を拡張する必要があるが、飼育展示している動物の移転(他の動物園、動物飼育機関への移転)がほぼ不可能な現状では、現有動物の寿命に基づく、長期的な対応が必要とされる。こうしたことや有識者の意見、飼育ハンドブックによる基準、他事例を参考とした規模設定により、飼育展示施設の規模は、現施設より増大することになるため、池を埋め立てるとともに、飼育展示施設の複合化、多層化により施設の縮小化を図った。

(i)繁殖推進する動物

ア) 大型哺乳類

- ・トラ（アムールトラかスマトラトラの純血種に移行し、繁殖に取り組む）
- ・マレーグマ、ブラジルバク（現有種で繁殖促進）

イ) サル類

- ・クモザル、テナガザル、キツネザル類
- ・小型サル類：リスザル、ワタボウシパンシエ、マーモセット類

ウ) 小型哺乳類

- ・レッサーパンダ、ワラビー、ヤマアラシ、ビーバー

エ) 鳥類

- ・フラミンゴ、ペンギン、カワセミ

オ) ふれあい動物

- ・テンジクネズミ、ウサギ（飼育、繁殖のために必要となる飼育ブースを整備）

(ii) 現状のまま飼育展示する動物

（飼育展示終了後は、他の動物種の飼育展示施設に活用、来園者サービス機能の拡充）

ア) タイゾウ

- ・放飼場面積を拡張する。
- ・飼育環境改善：プール、砂場、土床等を追加する。
- ・エンリッチメント機能（施設）を追加する。
- ・動物舎を改修（トゲ付扉取り替え等）する。
- ・タイゾウ飼育展示終了後は、動物ふれあい施設に転換する。

イ) チンパンジー

- ・放飼場運動機能の拡充：上下に行動できるタワー遊具を増設する。
- ・チンパンジー飼育展示終了後は、動物ふれあい施設に転換、もしくは、隣接するマダガスカルサル類の飼育展示施設としての拡張、または、広場や休憩所等のサービス機能の充実化を図る。

ウ) 大型哺乳類

- ・ライオン（国内で余剰傾向のため繁殖制限し展示の継続）
- ・ユキヒョウ（他の大型哺乳類の予備飼育展示施設として転用）

エ) ふれあい動物

- ・ヤギ、ポニー、ロバ、ミニブタ、地鶏等の家畜類の繁殖は行わない。（現状の個体のまま飼育展示し、必要に応じて他より補充）

オ) 鳥類

- ・コンドル、ハクチョウ、大型インコ類は現状維持（飼育展示終了後、他の動物種に変更もしくは、他の飼育展示種の規模拡張）

カ) 爬虫類

- ・現状のまま飼育展示。小規模な飼育展示施設であるため、飼育展示終了後の状況に応じて転用方法を検討する。
- ・ヘビ類
- ・カメ類

② 動物舎、展示施設（放飼場）の仕様

(i) 動物舎の仕様

ア) 繁殖推進動物種の寝小屋等

- ・寝小屋：3室（オス、メス、親子室※1）

寝小屋は動物種に合わせた規模とする。

（例：トラ・ライオン等の猛獣類：2.5×3m程度）

※1 親子室は、産室としての利用及び、子がオスであった場合の区分飼育するために必要となる。（繁殖させない動物種の場合は不用）

イ) 寝小屋の仕上げ

- ・床：コンクリート土間+モルタル仕上げ
- ・壁：コンクリート打放し、撥水材塗布
- ・天井：格子（溶接金網）、小屋裏に空調、換気、照明設備を設置

ウ) 寝小屋に必要な設備

空調、換気、照明、自然採光窓、床暖、水飲み、エサ投入口、部屋別単独排水

(ii) 展示場(放飼場)の仕様

ア) 放飼場

- ・床：土床
- ・外周壁：モート（堀）、格子もしくは溶接金網、擬岩壁
- ・日影、雨よけや水場の設置

イ) 植栽：展示動物の生育環境の再現、自然木による日影の創出

- ・人のためのランドスケープイマージョン（生態展示）ではなく、動物のための飼育展示環境の再現を最優先とする。

ウ) 環境エンリッチメント

- ・動物福祉の観点から、動物本来の行動を導き出す様々な仕掛けを設ける。

エ) 観覧小屋

- ・動物をより近く間近に観察できる多様な観覧ポイントを設ける。
- ・エンリッチメントの設置場所を観察ポイントに設定し、動物を間近に観察する。

オ) バリアータイプの検討

動物の逃亡防止のためのバリアーは、放飼場を構成する最も重要な要素であり、展示方針、動物の特性、見せ方、経済性、施工性等を考慮する必要がある。バリアータイプは観覧者と動物の間の柵や壁などの視覚的な障害物を除去したモート(堀)により逃亡を防止する無柵式とフェンスやウォール、ケージなどにより逃亡防止を図る有柵式がある。モート、フェンス、ウォール、ケージの4種を基本とし、その組み合わせによるバリエーションによって構成する。

カ) 繁殖を推進する放飼場

- ・仕切り柵：オスとメスおよび子（オスの場合）を区分する柵

放飼場に仕切り柵を設置する場合、広い放飼場面積が必要となるが、本園においては、仕切り柵を設置できる十分な放飼場の広さがないため、共有できる予備放飼場、屋内展示室もしくは、展示ローテーションにより対応する。

■施設の規模・仕様の設定

哺乳類		個体情報				現況施設				計画施設設定規模(m ²)			獣舎原単位(m ²)			
種名	全頭数	性別	現在の年齢	平均寿命	施設	面積	構造・バリア	建築年	築年	動物舎	屋内展示場	放飼場	寝室寸法	寝室規模 (寝室×頭数)	獣舎規模 (寝室規模+作業室他)	
野生	タイゾウ(アジアゾウ)	1	♀	37	60~70	動物舎	79.0m ² /2室	RC造	1981	36	79.0既存			6.5x6	39	78
		1	♀	37	60~70	放飼場	388.8m ²	モート+CW	1970	47			650.0			
	コモンリスザル	2	♂	10	10~15	動物舎	108.0m ² /12室	RC造	1994	23	複合展示舎 30.0	100.0 2層	150.0 2層	2.0x1.5	3.0x3	30
		2	♀	9	2.0x1.5									3.0x3		
	ジェフロイクモザル	2	♂	26	22~30									2.0x1.5	3.0x3	
		2	♀	不明	2.0x1.5									3.0x3		
	シロテテナガザル	2	♂	31	25~40	2.0x1.5	3.0x3	20								
	エリマキキツネザル(ssp)	3	♂1	29	20~35	放飼場	約9m ² /6ブース	ケージ:H2.5m (SS+SUS)	1989.0	28	43.0既存	-	150.0	2.0x1.5	3.0x2	40
		3	♀2	19,13	2.0x1.5									3.0x3		
	ワオキツネザル	3	♂2	28,11	20~35	ケージ新設							2.0x1.5	3.0x3		
チンパンジー	3	♂	34	45	動物舎	43.0m ² /3室	S造2F	1985	35	30.0	12.0	150.0	3.0x2.0	9.0x3	40	
	3	♀2	38,32	放飼場	43.0	ケージ:H3.0m	49.0増築									
レッサーパンダ	2	♂	10	15	動物舎	21.0m ²	RC造	1985	35	30.0	12.0	150.0	2.0x1.5	3.0x5	30	
	2	♀	6	放飼場	53.85m ²	ピット+CW										
野生	ワタボウシパンシエ	3	♂2	6.5	10~15	動物舎	24.0m ² /5室	RC造	1985	35	複合展示舎 20.0x3	左記に含む	20.0x3	2.0x1.5	3.0x3	40
		3	♀1	5	2.0x1.5									3.0x2		
	クロミマーモセット	3	♂	2	10~15									2.0x1.5	3.0x2	
		3	♀	2	2.0x1.5									3.0x3		
	コモンマーモセット	6	♂	不明1頭、 4.4,3.2	10~15	2.0x1.5	3.0x3									
	カナダヤマアラシ	1	♂	5	10~15	放飼場	16.0m ²		-	-	10.0	20.0	2.0x1.5	3.0x2	10	
	ベネットアカクビワラビー	3	♂2	11.2	10~15	動物舎	18.0m ²	RC造	2004	13	40.0			3.0x2.0	6.0x3	40
		3	♀2	5.4	放飼場	140m ²						180.0				
	アフリカタテガミヤマアラシ	3	♂1	9	12~15	動物舎	10.0m ²		-	-	20.0			2.0x1.5	3.0x3	20
		3	♀2	7.3	放飼場	26.5m ²			-	-			50.0			
アメリカビーバー	3	♂	8	10~15	ペンギンに含む (45.0m ²)					40.0		70.0	3.0x2.0	3.0x3	40	
	3	♀2	8.1	2.0x1.5									3.0x2			
家畜	マレーグマ	2	♂	13	15~30	動物舎	112.0m ² /8室	RC造	1996	21	60.0	160.0	120.0	3.0x2.0	6.0x3	180
		2	♀	14	4.0x3.5									6.0x3		
	ユキヒョウ	1	♀	-	-	内ケージ	22.0m ² /4ブース	RC造	1996	21	180.0	180.0	4.0x3.5	6.0x2		
	1	♂	13	15	4.0x3.5								6.0x2			
	ベンガルトラ	1	♂	5	15	動物舎	48.0m ² /3室	RC造	1990	27	60.0		180.0	4.0x3.5	6.0x3	80
	アメリカバク	2	♂	5	最長30	放飼場	107.0m ²	モート+CW				200.0		3.0x2.5	7.5x3	
	フクロモンガ(現在非公開)															
ヨーロッパハリネズミ																
家畜	小獣舎				動物舎	30.0m ²										
	テングネズミ									40.0		300.0				
	カイウサギ															
	シバヤギ															
	ミニブタ															
	シェットランドポニー	2	♀2	23,12		80.1m ²	柵									
	ミニチュアホース	1	♂去勢	14							30.0		200.0			
ロバ																
山梨県の動物展示 導入動物 未定																

鳥類		個体情報				現況施設				計画施設設定規模			獣舎原単位			
種名	全頭数	性別	現在の年齢	平均寿命	施設	面積	構造・バリア	建築年	築年	動物舎	屋内展示場	放飼場	寝室寸法	寝室規模 (寝室×頭数)	獣舎規模 (寝室規模+作業室他)	
野生	ルリコンゴウインコ									-						
	チリフラミンゴ	12		49~13	40~50	ケージ	71.4m ²	S造:H2.5m	1991	26		150.0				
	アンデスコンドル	2	♂	37	50~70	ケージ	13.5m ²	S造H2.5m	-	-			65.0			ケージ内
		2	♀	34												
	マゼランペンギン	5	♂3	17,8,8	20	動物舎	76.5m ²	RC造			15.0		120.0	3.0x4.0	12	15
		5	♀2	16,11	放飼場											
	コブハクチョウ															
ワライカワセミ	1	♀	6	20	ケージ	6.0m ²				-			複合展示舎	10.0		10
キバタン																
合計																

爬虫類		個体情報				現況施設				計画施設設定規模			獣舎原単位		
種名	全頭数	性別	現在の年齢	平均寿命	施設	面積	構造・バリア	建築年	築年	動物舎	屋内展示場	放飼場	寝室寸法	寝室規模 (寝室×頭数)	獣舎規模 (寝室規模+作業室他)
爬虫類	アルダブラノウガメ						柵・シェルター			-	10.0				
	ケヅメリクガメ						柵・シェルター				70.0				
	ミツユビハコガメ						柵・シェルター								
	アカアシガメ						柵・シェルター								
	ホルスフィールドリクガメ						柵・シェルター								
	パンケーキクガメ						ケース								
	インドホシガメ						ケース								
	コーンスネーク					26.00	ケース		1998						
	アオダイショウ						ケース								

2) 施設整備（飼育展示施設）の方向性

(1) 展示動物の生態

動物種については、表「飼育管理の方向性」に示された動物種を想定して施設整備を検討する。動物福祉に配慮した適切な飼育環境を実現し、教育的で魅力ある展示とするため展示予定動物の生態や国内外における保存種の指定状況を整理する。

種名	単独・群れ	生息地(すみか)	行動	食性	動水協種の保存事業対象種	国際自然保護連合(IUCN)評価	動物園水族館協会種保存対象種
					○	EN	○
タイゾウ (アジアゾウ)	母系の家族単位、15~20頭程の群れ、雄の成体は単独	東南アジア、熱帯林、草原	雄は15km ² 、雌の群は30km ² 行動範囲を持ち、食料や水を求めて移動。木の葉や根、茎などさまざまなものを食べる	草食性 (植物食)	○	EN	○
コモンリスザル	数十頭の群	中南米 熱帯林水辺に近い環境をこのむ	昼行性、樹上生活、樹冠移動	主に植物食 昆虫やカエル、鳥の卵なども食べる			
ジェフロイクモザル	数頭の群れ	メキシコ南部から中米 熱帯林	昼行性、樹上生活、尾を使って樹冠を素早く移動。地上におりることは少ない	主に植物食 昆虫やカエル、鳥の卵なども食べる		EN	
シロテナガザル	一夫多妻	東南アジア 熱帯林	昼行性、樹上生活、長い手を使って枝から枝へ移動(フライングジャンプ)ひと跳びで10程跳ぶこともある。水を嫌う(入らない)	主に植物食 昆虫や鳥の卵なども食べる	○	EN	
エリマキキツネザル (ssp)	家族単位の小さな群れ	マダガスカル 熱帯林	主に昼行性、樹上生活、樹冠移動	植物食		CR	○
ワオキツネザル	5~20頭程の群れ 社会性強い母系集団	マダガスカル 熱帯林~乾燥地	昼行性、樹上生活、跳躍力、地上では跳ねるように歩き四肢を広げて日光浴する。	主に植物食 昆虫やカメルオンなども食べる		EN	
チンパンジー	5~20頭程の群れ 社会性強い	アフリカ、主に熱帯林	昼行性、樹上性ではあるが移動は地上。2足歩行できるが通常は前足を使う。跳躍力も優れ夜間は樹上に巣を作って休む	主に植物食だがシロアリや昆虫、時にリスなど動物質も食べる	○	EN	○
レッサーパンダ	普段は単独 繁殖期や子育て期間は家族単位	高地の落葉林や針葉樹林	昼夜ともに行動するが夜行性が強い。木登りがうまく逆さに降りることが出来る樹木に臭いを付けなわばりを主張「外敵ユキヒョウ」	主に若タケやタケノコ、ドングリなど 動物質としては鳥の卵や小獣など	○	VU	○
ワタボウシパンシェ	家族を中心とした群れ	コロンビア西部熱帯林	昼行性 樹上性で動きが活発 枝から枝は敏捷に動き回る。	雑食性	○	CR	○
クロミマーモセット	一夫一妻	ブラジル高原の熱帯雨林	昼行性 樹上性で動きが活発 枝から枝は敏捷に動き回る。 樹冠部で生活	主に樹液や樹枝を食べる雑食性			
コモンマーモセット	家族単位の小さな群れ	ブラジル北東部沿岸の熱帯林	昼行性 樹上性で動きが活発 枝から枝は敏捷に動き回る。 樹冠部で生活	主食は昆虫、果実			
カナダヤマアラシ	単独	アラスカからメキシコ北部森林地帯	夜行性 半樹上性 昼間は樹洞で休む 気の登りは巧み 針はかたく先が鋭い	木の葉根、種子や穀類、冬期は樹皮			
ベネットアカキワラビー	単独あるいは小さな群れ	オーストラリア・タスマニアの森林や灌木地帯	昼行性 早朝夕方方が活発、採食時は草原等に姿を見せる。警戒心・好奇心が強く環境なれる。	草類を主食とするが木の葉や樹皮、果実など			
アフリカタテミヤマアラシ	一夫一妻	アフリカの森林、サバンナ、乾燥した岩場など	夜行性、昼間は掘った巣穴で休む。針はかたく抜けやすい。食べる時は前肢をうまく使い外敵のライオン針で攻撃、尾を振って音を出し威嚇	主食は草や木の根樹皮球根など 昆虫も食べる	○		
アメリカカビーバー	一夫一妻	北アメリカ 森林地帯から河川	夜行性 すくれた潜水能力を持つ半水生すみかは川の中にドーム状のものをつくる。	樹皮や木の枝、葉、根等	○	60	
マレーグマ	母子以外は単独	東南アジア、ボルネオ島などの定理や熱帯林	夜行性 昼間は樹上で眠ったり、日光浴するが人との接触がなうところでは日中も活動木登りが巧みで穴掘りもうまい	雑食性 白ありやハチミツを好む	○	VU	○
ユキヒョウ	単独	東南アジア 熱帯林	夜行性、岩や岩の割れ目等が棲家。行動範囲が広く他のヒョウと同様跳躍力に優れる	肉食性		EN	○
ライオン	一夫多妻 1~2頭の雄と数頭の雌	アフリカ サバンナ	昼間は木陰などで休み夕方から夜にかけて活発に活動し、仲間同士で協力して狩りを行う	肉食性		VU	
ベンガルトラ	単独	中央アジアの高山地帯 岩場	行動範囲が広い夏200km ² 、冬100km ² 木に登る子はほとんどないが泳ぎはうまい 巣は岩穴や樹木の下の窪み	肉食性		EN	○
アメリカバク	単独	南アメリカブラジル、コロンビアなど 熱帯林	日中は寝みの中で休んでいることが多いが完全な夜行性ではない 泳ぎがうまく水中に潜ることが出来る 嗅覚は鋭い	草食性 (植物食)	○	VU	○
フクロモンガ (現在非公開)	1頭の雄をリーダーに数頭の群	オーストラリア、タスマニアの森林	皮膚を樹冠を滑空、巣穴に適した樹洞を巣穴とする。夜行性強い。	雑食性			
ヨーロッパハリネズミ		西ヨーロッパから中央ヨーロッパ 森林、用地	夜行性、危険を感じるとボール状になる。冬眠する	雑食性			
小獣舎							
テンジクネズミ	37	♂6 ♀31		37			
カイウサギ	16	♂13 ♀8		16			
シバヤギ	4	♀		4			
シェットランドポニー	3	3		3			
ミニチュアホース	1	♂去勢		1			
ミニブタ	1	♀		1			
ロバ	1	♀		1			
山梨県の動物展示 導入動物 未定							

鳥 類					動物園水族館協会種保存対象種	国際自然保護連合 (IUCN) 評価	動物園水族館協会種保存対象種
種 名	単独・群れ	生息地(すみか)	行動	食性			
野生	ルリコンゴウインコ	一夫一妻	南アメリカ大陸 熱帯雨林	強力な嘴をもち、嘴で木にぶら下がることもある。鳴き声が大きい	植物食		
	チリフラミンゴ	数千羽を超える大きな群れ	南アメリカ	山地の塩水湖に棲む。泥や土を盛り上げて巣をつくる	水中の珪藻類		
	アンデスコンドル	一夫一妻	南アメリカ西部アンデス	世界最大の猛禽類で翼を広げると3mを超す個体もある。断崖絶壁に巣を作る。	肉食性	○	
	マゼランペンギン	一夫一妻 大きな群れを作る	アルゼンチンからチリにかけての温帯域に生息	繁殖期はコロニーと呼ばれる大きな集団で営巣する。巣は森は草原、砂礫の多い場所など様々で地上につくる習性があるが穴が掘りやすいところではトンネルを掘って巣を作ることがある。	魚類、オキアミなど	○	○
	コブハクチョウ		ヨーロッパ、アジア	繁殖のため渡りをする アシや水草を積み上げ巣を作る	植物食		
	ワライカワセミ	家族で生活	オーストラリア 森林から草原	大声で囁りなわばりを主張する 木のうろに巣を作る 地上で獲物を捕らえる	動物食		
	キバタン	1	オーストラリア 熱帯林	強く高い知能をもち激しい鳴き声			
爬 虫 類					動物園水族館協会種保存対象種	国際自然保護連合 (IUCN) 評価	動物園水族館協会種保存対象種
種名	全頭数	生息地(すみか)、生態		食性			
野生	ミツユビハコガメ	4	アメリカ東部 森林～草原		雑食性		
	ケヅメリクガメ	2	アフリカ砂漠～草原 薄明薄暮性 巣穴を掘る		植物食		VU
	アカアシガメ	2	南米など 湿度の高いサバンナ		植物食		
	アルダブラゾウガメ	2	セーシェル固有種 海岸沿いにある草原内陸部の低木林など薄明薄暮性 昼間は日陰で過ごしたり水浴びや泥あびを行う。		植物食	○	VU ○
	ホルスフィールドリクガメ	1	アフガニスタン、イラン等 砂漠やステップ 昼行性		植物食		
	バンケーキリクガメ	1	ケニアなど サバンナや乾燥した藪地、岩の割目 薄明薄暮性		植物食		VU
	インドホシガメ	3	インド 熱帯雨林、サバンナや藪地 雨期は昼行性がつよい		植物食		VU
	コーンスネーク	1	アメリカ森林 地表性だが木登りもうまい 地域によっては冬眠		動物食		
アオダイショウ	3	日本固有種 平地から山地の森林 樹上性強い 昼行性		動物食			

3) 施設整備（飼育展示施設）の検討

(1) 基本的な考え方

再整備に向けての基本的な考え方は下記の項目となる。

- ・動物園の整備テーマ「動物たちとふれあいのできる動物園」「誰もが利用しやすい動物園」「動物の本来の生態を観察できる動物園」に基づき、本園の魅力を高め、積極的に情報発信する場とする。
- ・生き生きとした動物本来の行動を引きだし、間近で見る、多角的に観察するなど複数の視点場を確保し、来園者にわくわく、ドキドキといった驚きや感動、「ふれあい」と環境教育の実践による、観察・学習する楽しさなどを肌で感じることが出来る展示施設を構築する。
- ・自然環境に対する世界的な関心の高まりを背景に、展示動物に対する興味と理解を深め、知的好奇心を満足させることで、動物と自然の共存を感じることが出来る展示構成とする。
- ・動物福祉に配慮し、良好な飼育環境の確保の観点から、動物舎及び放飼場を再整備し、種の保存、調査研究等に貢献する動物園を目指す。
- ・展示動物の生態的な特性を引き出すために、動物固有の能力や行動、野性的な生活スタイルを形成する環境エンリッチメントに配慮する。
- ・狭い敷地の中で動物相の豊かさを見せるために、立体的展示、混合飼育やレイヤ展示、ローテーション展示などによる複合展示や多層展示などによる効果的な展示手法を導入する。

①動物の立場

基本的な展示構成として、動物の健康と福祉が最優先であり、動物が快適に生活できる飼育環境、環境エンリッチメント、動物の福祉に配慮した施設を整備する。

②利用者の立場

県内唯一の動物園として、次世代を担う子どもたちに、貴重な動物の生態などに触れ、動物や自然環境について関心を持つきっかけとなる「環境教育」の実践の場として、動物園の社会的な役割を果たす必要がある。動物園として積極的にアピールするために、安全で見やすい、多角的で興味深い、来園者に必要とされるタイムリーな情報を提供する取り組みが求められる。

③管理者の立場

飼育管理の効率化を図るために、省力化、経済化、システム化を推進し、かつ安全な施設づくりを行う。あわせて、環境教育プログラムや調査研究機関の等の活動にも連携可能な組織づくりが求められる。

(2) 動物の展示テーマ

「活動空間エリア展示」と「多層的な展示環境」により、狭くても楽しく興味深く学べる動物園をめざす。

動物が本来生息する野性的な生態空間を踏まえ、水辺や樹上、地上などの活動空間を象徴的にとらえ、動物のいきいきとした行動を引き出す展示構成とし、環境エンリッチメントに配慮した豊かな飼育環境を形成する新しい展示方法へ転換を図る。

動物種本来の平面的・立体的な活動場所の違いを明確にし、自然界の多様性や生態系への理解を深め、より興味深く教育的な展示空間を形成する。

(3) ゾーニング

動物園区域は管理事務所、入口広場、レッサーパンダのウェルカム展示のあるエントランスを中心に、学習ゾーンと野生動物観察ゾーンで構成する。

学習ゾーンは既存のアジアゾウ舎、サル舎（マダガスカル動物展示）、チンパンジー舎を改修し、野生動物の保全に繋がる展示、環境エンリッチメントに留意した展示、野生動物の観察方法をレクチャーする施設とともに、家畜などの身近な動物やポニーとのふれあい学習ができる場とする。

野生動物観察ゾーンは、動物の生態を考慮し動物の活動場所毎に区分して展示する。

地上から岩場ゾーン：アフリカタテガミヤマアラシ、ライオン、ベンガルトラ

樹上・高い岩場ゾーン：ユキヒョウ、マレーグマ、アンデスコンドル、シロテテナガザル

樹冠ゾーン：ジェフロイクモザル、コモンリスザル、コモンマーモセット、フクロモモンガ、
鳥類

草原のゾーン：ベネットアカクビワラビー、リクガメ

水辺のゾーン：マゼランペンギン、アメリカビーバー、アメリカバク、チリフラミンゴ

(4) 展示イメージ

同一の空間に複数の動物種を展示し種間の関わりを見せる混合展示や、動物と動物、動物と背景植栽を重ねて見せるレイヤ展示など目・科・種の異なる動物種を同じエリアに展示することで、動物種本来の平面的、立体的な活動場所の違いを明確にし、自然界の多様性や生態系への理解を深め、より興味深く教育的な展示空間を形成する。

単一展示から新しい展示方法へ。

○垂直方向で棲み分けが可能な種は混合飼育が可能な施設とする。

ex ; ビーバーとカナダヤマアラシ（現有種・飼育予定種）

アメリカバクとコンゴウインコ

○垂直方向の活動する動物や樹上で活動する動物、立体的空間、樹冠を水平方向に移動する動物は水平空間を確保するなど動物の生態や行動に配慮した施設とする。

ex ; 木登りが得意なマレーグマ、岩山など垂直に行動するユキヒョウ

樹冠を移動するテナガザル、クモザル

○動物が複数の放飼場を使えるローテーション展示、ハズバンドリートレーニングや子育て中の個体などを収容できるバックヤード展示を導入する。

ex ; 暑さに弱いユキヒョウは夏期には涼しい放飼場へ。寒さに弱いリクガメは冬期には暖かい放飼場へ

○動物の生態に配慮した水面を確保する。

ex ; 潜水するブラジルバクやペンギンは十分な水深を確保することで行動を引き出す。

フラミンゴは浅く広く、繁殖のためのぬた場を設ける。

○複合展示

複数の動物を同居させて展示する複合展示施設を整備する。キヌザル類や爬虫類などの温度・湿度管理が必要な種は冷暖房により、動物の生態・生息域に応じた展示空間を形成する。

(5) 動物種毎の展示イメージ

①既存施設を活用して整備

次世代撤退するアジアゾウ、チンパンジーは展示終了まで、老朽化による修繕をその都度行い、終了後は撤去する。サル舎はアジアゾウ、チンパンジーの展示終了時点で学習エリア全体を一体的整備更新することを踏まえて検討する。

a. タイゾウ（動物舎既存活用、放飼場拡張）

ゾウの適正規模としては1頭あたり500㎡以上の面積を必要とするが、現状は放飼場が面積不足であり、動物の福祉、環境エンリッチメントに適合していない状況にある。個体が高齢であること、現個体死亡後は展示を終了とするため、経済性を考慮し既存施設を活かして改修する。

既存バリアはモートと擁壁で構成されているため、観客側のモートは視界いっぱい動物が見ることができるが、ゾウが遠く感じるため、ワイヤー柵による展示とし、モートはプールとする。背面の擁壁については敷地境界接近して設置しているため既存活用し、西側の擁壁は撤去し、ワイヤー柵に改修し緑地を設ける。拡張部分にはゾウの生態やエンリッチメントに配慮し、砂あびのための砂場、背中こすり、緑陰、給餌のエンリッチメント施設を確保する。

面積・バリア

	既存施設	拡張後	備考
動物舎	79.0 ㎡	-	
放飼場	388.8 ㎡	650 ㎡ (拡張面積 250 ㎡)	
バリア	モート・擁壁	拡張部分ワイヤー柵	

b. チンパンジー（動物舎既存活用、放飼場拡張）

既存の放飼場の面積だけでなく高さも確保されていないため、チンパンジー本来の樹上生活とかけ離れた展示となり、知能の高いチンパンジーにとって劣悪な環境にある。現有個体死亡後、展示終了とするため、経済性に考慮し既存施設を活かした改修とする。立体的な行動や多様なエンリッチメントを提供できるようケージは広さだけでなく高さを確保した改修を行う。来園者の目にいつもさらされてストレスとなっている状況を回避するため、ケージ前に植栽帯を設け、落ち着いた環境を提供する。

既存ケージ上に垂直方向の空間を確保するため拡張し、環境エンリッチメント施設を増築する。チンパンジーの展示終了まで、老朽化による修繕はその都度行う。修繕期間は他の動物舎に収容する。

面積・バリア

	既存施設	拡張後	備考
動物舎	43.0 ㎡	-	既存活用
放飼場	43 ㎡	-	既存活用
バリア	ケージH3.0m	ケージH6.0 (+3m)	上部に拡張
放飼場	-	6 ㎡ (増築) ケージ	エンリッチメント

c. サル舎（動物舎既存活用、放飼場拡張）

樹上性で活発に活動するサル類の施設であるが、面積、高さとも不足し動物本来の行動を引き出すことが出来ない状況である。各展示ブースの面積が狭いため、飼育係によるエンリッチメント施設もバリエーションの展開がしにくい状況である。来園者にとっても興味深く多角的に観察できる施設となるよう、現在のケージを撤去し、新たにケージ部分を新設する。動物の生態の特性から比較的高さを必要としない、ワオキツネザルなどキツネザルの仲間とリクガメによる「マダガスカル動物」展示施設に改修する。寝室の余剰分はサル類の予備室とする。

ウォークイン観察を可能とし、野生動物の観察方法をレクチャーする施設として改修する。
面積・バリア

	既存施設	ケージ部分新設	備考
動物舎	108.0 m ²	-	
放飼場 動物舎に含む	9 m ² /ブース	キツネザル 150 m ²	リクガメ混合展示
バリア	ケージH2.5m	ネットH4.0	

②新たに整備する施設

動物の野性的な生態空間に近づける展示を基本に、水辺や樹上、地上などの活動空間を象徴的にとらえ、動物のいきいきとした行動を引き出し、来園者が五感で展示動物を感じることができる展示施設を整備する。

a. 猛獣（ライオン、トラ、ユキヒョウ）

エサや施設の仕様が同様となるネコ科の動物の動物舎は、ヒョウなど他種の展示、飼育が可能な施設とする。運動不足の解消となるための回遊路やシュートの設定によって放飼場間のローテーションを可能とし、ハズバンダリートレーニング、繁殖期分離等に対応できる予備室を確保する。動物本来の行動を引き出すため、十分なケージ高さを確保し、植栽や池、岩場など配置し、野生本来の活動を導き出す環境を整備する。猛獣であるため、安全管理体制、設備の確立を図る。

面積・バリア

	既存施設	ケージ増設（新設）	備考
動物舎	112.0 m ²	180 m ²	
放飼場 動物舎に含む	22 m ² /ブース	ライオン 180 m ² 、トラ 180 m ² 、 ユキヒョウ 120 m ²	ユキヒョウ 120 m ² は2層
バリア	ケージH4.0m	ケージH5.0m～	

b. マレーグマ

木登りが得意で、穴を掘るなどの行動を積極的に引き出す放飼場とする。木登りのための立木や高所や土の中にフードフィーダを設置するなどによってマレーグマの行動を引きだし、多角的に観察できる放飼場とする。熱帯の動物に対応した、冬期のホットスポットを確保する。繁殖や子育て期間等を考慮し、放飼場を分割することができる施設とする。

面積・バリア

	既存施設	拡張後	備考
動物舎	猛獣舎に含む	60 m ²	
放飼場	同上	160 m ²	
バリア	ケージH3.0m	コンクリートウォール+ケージ H6.0	スロープから観覧可

c. アメリカバク

水辺の生き物として展示するバクの生態を考慮し、水中で歩行したり、潜水することができる「プール」を整備する。繁殖や子育て期間の分離などに対応できる放飼場とし、バックヤードや予備施設を確保する。コンゴウインコなど鳥類との混合展示を検討する。

面積・バリア

	既存施設	新施設	備考
動物舎	48.0 m ²	60 m ²	
放飼場	107.0 m ²	200 m ²	
バリア	モート・擁壁	水モート+フェンスH2.0	

d. 小型サル

コモンマーモセット等小型で温度管理が必要な環境を備えた複合展示舎で展示する。要所に植栽を施し、熱帯雨林の環境を再現し小型サルが樹冠を敏捷に移動する様子を観察できる展示とする。

面積・バリア

	既存施設	新施設	備考
動物舎	24.0 m ²	複合展示施設	
放飼場	動物舎に含む	20 m ² ×3	
バリア	屋内（前面ケージ）		

e. ジェフロイクモザル（既存サル舎で展示）

四肢と尾をつかって樹上性で活発に活動するサルであり、動物本来の行動を引き出すことができるよう樹冠をイメージした縦横方向に立体的に移動が可能な展示構成とする。手先や尾の器用さなど間近で観察できる場所など、来園者にとっても興味深く多角的に観察できる展示とする。

面積・バリア

	既存施設	新施設	備考
動物舎	108.0 m ²	複合展示舎	リスザル仕切混合的展示
放飼場	9 m ² /ブース	100 m ²	
バリア	ケージH2.5m	ケージH6.0	

f. シロテテナガザル（既存サル舎で展示）

クモザルと同様、樹冠をブラキエーション（腕渡り）で移動するテナガザルは、高さだけ

でなく水平方向に広い展示空間とし、地上部に他の動物種と棲み分け展示を可能とする施設構成とする。

面積・バリア

	既存施設	新施設	備考
動物舎	108.0 m ²	20.0 m ²	
放飼場	9 m ² /ブース	150 m ²	2層空間
バリア	ケージH2.5m	コンクリートウォール+ケ-H6.0	スロープから観覧

g. レッサーパンダ

本園を代表する動物として積極的に繁殖に取り組んでいるレッサーパンダは、暑さに弱い
ため、夏と冬で展示スペースを切り替えることができる放飼場と飼育管理作業をバックアッ
プする動物舎を整備する。野生の行動を引き出す立体的な展示空間とする放飼場は繁殖期の
ペアリングや子育て期間の分離のため、屋内外に複数の放飼場と寝小室を確保するとともに、
飼育管理の作業効率等を考慮し、エサとなるタケの保存用冷蔵倉庫や作業スペースを確保す
る。地上レベルの観覧に加えて、樹上レベルでの観察場所を設定する。

面積・バリア

	既存施設	新施設	備考
動物舎	21.0 m ²	42 m ²	屋内展示 12 m ² 含む
放飼場	53 m ²	150 m ²	2箇所合計
バリア	ピット+擁壁	ピット・フェンス(ガラス等)	

h. チリフラミンゴ

繁殖に適した飼育環境とするため、飛躍することができる高さをもつケージとし、水辺環
境や繁殖のためのぬた場、繁み等の陸地環境を整備する。

面積・バリア

	既存施設	拡張後	備考
動物舎	-	-	
放飼場	71 m ²	150 m ²	
バリア	ケージH2.5m	ネットH5.0	

i. ベネットアカクビワラビー

これまで見ることが出来なかった生態を引き出すため、放飼場を拡大して身を隠すことが
できる繁みや岩、倒木を配置する。繁殖を考慮し分離展示ができる施設とする。比較のおと
なしい動物であることから、ふれあえるような近さで観察できる場所を設定する。

面積・バリア

	既存施設	拡張後	備考
動物舎	18.0 m ²	40 m ²	
放飼場	140 m ²	180 m ²	
バリア	柵(鋼製) H1.5m	柵 1.5m~2.0m	

j. マゼランペンギン

マゼランペンギンは温帯に生息し、森林、草原など様々な場所で巣をつくり、繁殖する状況を視覚的にも観察できる展示施設に新設する。水面を泳ぐ姿と水中（複合展示舎内）を観察できる展示を導入する。

面積・バリア

	既存施設	拡張後	備考
動物舎	-	15 m ²	
放飼場	25.0 m ²	120 m ²	
バリア	柵+水モート	柵H1.5	

k. アメリカビーバー

森に棲むビーバーの生活環境を再現する。屋外は森と池と水上の巣穴よる展示、複合展示舎では夜行性であるビーバーの生態を観察できる展示構成とする。

面積・バリア

	既存施設	拡張後	備考
動物舎	-	40 m ²	
放飼場	45.0 m ²	60 m ²	屋外面積
バリア	ピットH2.5m	ピット+柵ケージH2.0~2.5	

l. アフリカタテガミヤマアラシ

アフリカタテガミヤマアラシは、本園が動水協の加盟園の代表として種別調整者となっていることから、動物福祉、環境エンリッチメントに対応し、他園の参考となる施設を整備する。

面積・バリア

	既存施設	拡張後	備考
動物舎	10 m ²	20 m ²	
放飼場	26.5 m ²	50 m ²	
バリア	柵H1.2m	柵H1.5	

m. アンデスコンドル

コンドルは羽を広げると3m以上もある大型種であり、羽を広げて日光浴する姿が特徴となるため、十分に羽を広げ日光浴できる施設規模を確保する。コンドルは現有個体死亡後、展示終了することになっているため、他の動物の飼育を考慮した施設とする。

面積・バリア

	既存施設	拡張後	備考
動物舎	13.5 m ²	65 m ²	
放飼場	上記に含む	同左	
バリア	ケージH2.5m	ケージH5.0	

n. リクガメ・爬虫類

リクガメは寒さに弱い動物であるため冬期は暖房の効いた屋内施設に収容する。その他ヘビ類なども温度調整が必要な種もあり、これらをまとめて複合展示舎に展示する。

面積・バリア

	既存施設	拡張後	備考
動物舎	下記に含む	10 m ²	小型爬虫類は複合展示舎
放飼場	34 m ²	70 m ²	大型リクガメ
バリア	柵H1.2m	柵H1.5	